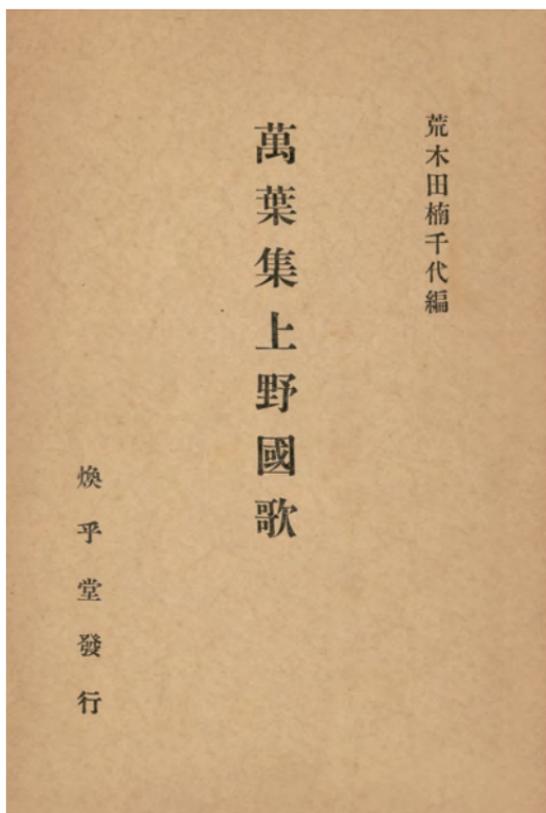


萬葉集上野国歌

復刊版



荒木田楠千代編

萬葉集上野国歌

煥乎堂發行

群馬地域文化振興会

荒木田楠千代編

萬葉集上野國歌

煥乎堂發行

例言

一、本書には萬葉集中に於いて上野國に關する歌、及びそれと推定される歌五十首を採集印刷せり。

一、右採集に關しては上野歌解に見えたる橋本直香の説を基礎とし、現在一般に行はれつゝある諸説を參照し更に私意を以つて加除せり。上述以外の上野歌解に見えたる歌は參考として附加したり。

一、本文は西本願寺本萬葉集所收本文を基礎とし此に諸説を參照して二三改訂したり。

一、西本願寺本萬葉集は佐佐木信綱博士複製本により、諸説は校本萬葉集に據れり。

一、番號は國歌大觀のものを取り用ひ、片假名の訓は西本願寺本萬葉集所收の訓を基礎とし此に諸説を參照したり。漢字まじり平假名の訓は岩波文庫所收佐佐木信綱博士校訂の新訓萬葉集を基礎とし私意を加へて改めたり。

一、所收歌中の地名と想定せられたる現在地名、橋本直香の説、本文改訂の原據等に關しては上欄に簡單なる註を附したり。

萬葉集上野國歌

荒木田楠千代編

卷十四 東謠

相聞

比能具禮爾 宇須比乃夜麻乎 古由流日波 勢奈能我
素佢母 佐夜爾布良思都

三四〇二
○字須比乃夜麻は碓氷
の山に現在碓氷郡坂本
町碓氷峠。公式令山東
の註に謂信濃與上野界
山也とある山なり。

三四〇二

ヒノグレニ、ウスヒノヤマヲ、コユルヒハ、セナノガン
デモ、サヤニフラシツ

つ 日の暮に碓氷の山を越ゆる日は夫のが袖もさやに振らし

三四〇三
○於久は諸本凡て於父
今萬葉代匠記の説によ
り改。

○多胡能伊利野は現在
多野郡に入野村あり。
和銅四年に置かれたる
多胡郡の地なり。附近
に多胡碑あり。

○久佐麻久良は草枕
旅の枕詞。今多にか
けしか。

三四〇四
○安蘇は古く奈佐勝阜
の山吹日記、上野歌解
等に北甘樂郡宇田村朝
岡とするも信じ難し。
和名抄下野國に安蘇郡
安蘇とあり。上下毛野
國の接壤地、現在栃木
縣安蘇郡佐野町附近か

三四〇五

安我古非波 麻左香毛可奈思 久佐麻久良 多胡能伊
利野乃 於久母可奈思母

三四〇三

アガコヒハ、マサカモカナシ、クサマクラ、タコノイリ
ヌノ、オクモカナシモ

吾が戀はまさかまかなし草枕多胡の入野のふくもかなし
も

可美都氣努 安蘇能麻素武良 可伎武太伎 奴禮杼安
加奴乎 安杼加安我世牟

三四〇四

カミツケヌ、アソノマツムラ、カキムダキ、ヌレドアカ
ヌヲ、アドカアガセム

上毛野安蘇の眞麻むらかき抱き寝れどあかぬをあどかあ
がせむ

可美都氣努 乎度能多杼里我 可波治爾毛 兒良波安

○第一句勢は流布版本に乃。

○乎度は次歌と見較べて乎野と同じか。和名抄上野國甘樂、綠野、群馬三郡に各々小野あり。現在多野郡小野村はそれか。

或本歌

○前歌が男性の作なるに對し此は女性の作と見ゆ。或は異傳の歌に非ずして問答歌か。

三四〇六

○左野は現在群馬郡佐野村の地。

波奈毛 比等理能未思互

三四〇五

カミツケヌ、ヲドノタドリガ、カハヂニモ、コラハアハナモ、ヒトリノミシテ

かみつけぬをどのたどりが川路にも兒らはあはなも一人のみして

或本歌曰 可美都氣乃 乎野乃多孖里我 安波治爾

母 世奈波安波奈母 美流比登奈思爾

或本歌曰

カミツケノ、ヲヌノタドリガ、アハヂニモ、セナハアハナモ、ミルヒトナシニ

かみつけのを野のたどりがあはぢにも夫は逢はなもみるひとなしに

可美都氣野 左野乃九久多知 乎里波夜志 安禮波麻

多半惠 許登之許受登母

○九久多知は葦立。蔓菁(あをな)の古稱なり
○乎里波夜志。乎里は接頭語、波夜志は刈り取る意の方言。

三四〇七
○麻具波思麻度は意不明。上野歌解に目妙島戸にて島戸は地名、目妙は其處を譽めたる詞と云へり。

三四〇八
○爾比多夜麻は新田山和名抄に新田郡新田と見ゆる處の山。現在の新田郡太田町金山に當

三四〇六

カミツケヌ、サヌノククタチ、ヲリハヤシ、アレハマタムエ、コトシユズトモ

上毛野佐野のくくたち折りはやし吾は待たむゑことしこずとも

可美都氣努 麻具波思麻度爾 安佐日左指 麻伎良波之母奈 安利都追見禮婆

三四〇七

カミツケヌ、マグハシマドニ、アサヒサシ、マギラハシモナ、アリツツミレハ

上毛野まぐはしまどに朝日さしまぎらはしもなありつづ見れば

爾比多夜麻 爾爾波都可奈那 和爾余曾利 波之奈流
兒良師 安夜爾可奈思母

三四〇八

ニヒタヤマ、ネニハツカナナ、ワニヨソリ、ハシナルコ

三四〇九

○伊香保呂の呂は接尾辭。伊香保は現在群馬郡に伊香保町あるも古くは榛名山一帯を指せるものか。
○可奴麻豆久は意不明可奴麻は地名歟。
○此歌第三句以下の意定説なし。後出三五八を参考すべし。

三四一〇

○第一句、第二句につきては後出三四三五、三四九五等を参照せよ

ラシ、アヤニカナシモ
新田山嶺にはつかかな吾によそりはしなる兒らしあやにかなしも

伊香保呂爾 安麻久母伊都藝 可奴麻豆久 比等登於
多波布 伊射禰志米刀羅

三四〇九

イカホロニ、アマグモイツギ、カヌマヅク、ヒトトオタバフ、イザネシメトラ
伊香保ろにあま雲いつぎかぬまづく人とおたばふいざねしめとら

伊香保呂能 蘇比乃波里波良 禰毛己呂爾 於久乎奈
加禰曾 麻左可思余加婆

三四一〇

イカホロノ、ソヒノハリハラ、ネモコロニ、オクヲナカネソ、マサカシヨカバ

伊香保ろのそひの榛原ねもころに奥をなかねそまさかし
よかば

多胡能禰爾 與西都奈波倍豆 與須禮騰毛 阿爾久夜
斯豆之 曾能可杷與吉爾

三四二一

タコノネニ、ヨセツナハヘテ、ヨスレドモ、アニクヤシ
ヅシ、ソノカホヨキニ

多胡の嶺に寄綱はへて寄すれどもあにくやしづしそのか
ほよきに

賀美都家野 久路保乃禰呂乃 久受葉我多 可奈師家
兒良爾 伊夜射可里久母

三四二二

カミツケヌ、クロホノネロノ、クヅハガタ、カナシケコ
ラニ、イヤサカリクモ

上毛野黒保の嶺ろのくずはがたかなしけこらにいや離り

三四一一

○第四句斯は京大本に新、同之は元曆校本に久とありて此に従ふ書もあり。

○第五句杷は諸書に抱、波に作る。

○多胡能禰は多胡地方の山にて、上野歌解に三株、八束、牛伏などを指すとせるも現在多胡村南方の山歟。

三四一二

○久路保乃禰呂は黒保の嶺ろにて、今赤城山の東峯に黒檜嶽あり。東南麓に現在勢多郡黒保根村あり。

○第三句は意未詳。